

2016年度理工学部自己点検・評価報告書

基準1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 学部の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	①「理工学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年9月作成)(96～98頁)において、「1 理念・目的」を掲載している。 ② 学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。					
(2) 学部の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか						
a ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	①「理工学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」は、「1 理念・目的」を含め教授会で承認しており、本学部教職員に周知されている。また、学生向けとしては、新入生ガイダンスで理工学部の理念・ポリシーをわかりやすく説明し、学部便覧にも掲載している。 ② 学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」は、明治大学ホームページに公開しており、受験生を含む社会一般に公表している。					
b ●人材養成の目的の認知状況を確認していること。 【約200字】	2015年度に実施した「大学における学びに関するアンケート」によると、理工学部の「人材養成その他の教育研究上の目的」の認知度は50.2%である。 全学平均(46.2%)よりも認知度は高いものの、さらに認知度を高める必要がある。 なお、方針を知った資料として上位2項目の回答は「WEBサイト」が18.3%、シラバスが17.6%であった。		全体平均(46.2%)よりも認知度は高いものの、さらに「人材養成その他の教育研究上の目的」の認知度を高める必要がある。		学部ホームページの構成や階層構造を改善し、認知度を55%に高める。	
(3) 学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	①「教育・研究に関する年度計画書」は毎年度、学部執行部が責任主体となり原案を作成し、執行部・各学科長・総合文化教室主任・専攻(系)主任で構成される「総務委員会」を経て「合同教授会」で承認される。2016年度は8月1日教授会で承認され決定した。年度計画書は農学部と2学部で協議を行い、生田キャンパス全体の教育研究計画の統一性を図っている。 ② 学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」を変更する際には、教授会審議を経て、全学の教務部委員会、学部長会、理事会の審議承認を経て改正することになっている。2016年度は改正していない。					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか					
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	① 求める教員像は、「理工学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(99頁)「3 教員・教員組織」において掲載している。 ② 教員組織の編制方針は、「理工学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(99頁)「3 教員・教員組織」において掲載している。 ③ 学部の「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を明記した「教育・研究に関する長期・中期計画書」を教授会で承認することにより、本学部教職員で共有している。				
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	① 専任教員の任用・昇格に関しては、『明治大学教員任用規程』等、大学の定める規定に則り、学部で定めた「理工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規」により明確に規定している。 ② 任用時の求める能力は内規「第2章」に、昇格については内規「第4章」に規定している。				
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	① 理工学部の教育研究に関わる最終意思決定は「理工学部・理工学研究科合同教授会」であり、運営は学部長(研究科長兼務)と学部長を補佐する教務主任・大学院委員から成る執行部により行われる。教授会で諮られる案件は、前段階の総務委員会の中でその詳細について審議される。その内容は総務委員会委員から学科・教室の会議を通じて各教員に説明される。そのため教授会の段階では、各教員とも共通の理解のもとで審議が行われる。審議事項によっては、合同教授会の委任事項及び議案確認、他の専門委員会への審議付託、学科会議等への諮問等審議案件の取扱いについて協議・審議する「総務委員会」で扱われる。 ② 合同教授会を含む各委員会は、「理工学部及び理工学研究科の合同運営に関する内規」で規定され、会議体の連関は組織図にまとめられており、これに基づき所属教員を適切に配置している。				

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか						
教員の編制方針に沿った教員組織の整備						
◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること（設置基準第7条第3項） 【約400字】 ※ 現在数とは、2017年5月1日現在の数値です。	設置基準上の必要教員数と現教員数（2017年5月1日現在の教員数、以下カッコ内は現教員数）は、学部76名（159名）、電気電子生命学科12名（28名）、機械工学科10名（16名）、機械情報工学科10名（28名）、建築学科10名（23名）、応用化学科9名（19名）、情報科学科9名（14名）、数学科8名（16名）、物理学科8名（15名）であり、基準を充足している。					
	設置基準上の必要教授数と現専任教授数（2017年5月1日現在の教授数、以下カッコ内は現教授数）は、学部39名（87名）、電気電子生命学科6名（14名）、機械工学科5名（7名）、機械情報工学科5名（13名）、建築学科5名（16名）、応用化学科5名（8名）、情報科学科5名（10名）、数学科4名（8名）、物理学科4名（11名）であり、基準を充足している。					
	専任教員一人当たりの学生数を収容定員ベースで24名とすることを基準に整備することとしており、2017年5月1日現在、収容定員（3700名）ベースで23.3名である。なお、学生現員（4,317名）ベースでは、27.2名である。	収容定員ベースではST目標値を達成している。			学部教育の充実化のため、さらに助教を1名増員し学科数と同数の8名とする。	

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>b ◎『教員組織の編制方針』と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】</p>	<p>C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</p> <p>教員組織の編制実態について、資格別平均授業担当時間数は、教授19.1時間、准教授18.5時間、専任講師19.8時間（大学院の授業担当数を含む）であり、それぞれの資格における責任担当時間である教授の10時間、准教授の8時間、講師の6時間をはるかに超え、超過時間手当の支払い対象となっている。</p>					
	<p>開設科目総数に占める専任教員の担当科目の比率（専兼比率）は54.6%である。各学科の必修科目においては約5～6割のコマを専任教員が担当しており、自由選択科目において非常勤講師による多様な講義が行われている。</p>					
	<p>任期付き専任教員を10名（特任教授3名、助教7名）を任用している。 助教については、学生と近い世代の人物であり、実験実習または理系基礎科目を教えることにより学生が相談しやすい環境を作り、学修モチベーションを向上させる役割を果たしている。自身の教育力向上と学部としての教育の質の確保を目的に、応用化学・数学・物理の各学科は主に基礎科目を、電気電子生命学科・建築学科は専門科目を担当している。</p>		<p>助教の任期が3年となっている。これは一般的な助教の任期と比して短く、優秀な人材確保が困難である。</p>		<p>学部内で助教制度、特に任期に関する議論を行う。</p>	<p>左記の学部内議論の結果に基づき、助教制度の改正について全学的な議論を即す。</p>

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
教員組織を検証する仕組みの整備						
c ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	学部の執行部及び各学科が教員・教員組織の適切性の検証を行い、検証結果を「学部教員任用計画」と「教育・研究に関する年度計画書」に執行部(案)としてまとめ、7月の合同教授会で承認している。 『年度計画書』の単年度計画は、学部の将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて、補充・増員すべき教員の主要科目、資格を検証し、次年度の「学部教員任用計画」に反映させている。また、『年度計画書』の長期・中期計画は自己点検・評価結果を参考として、教員・教員組織の検証を行い、その編制方針の見直しを行い、6月の「教育・研究に関する年度計画書」策定時に反映させている。 なお、本学部は学部4年間と大学院2年間の連携教育を重視していることから、教員組織の整備については大学院を含めて考える必要がある。「教育・研究に関する年度計画書」に定めた整備方針である「大学院理工学研究科の教育・研究活動の進展をも視野に入れ、より充実した教員組織を作り上げていく必要がある。					
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか						
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	①任用・昇格については「理工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規」に基づき審査している。なお、手続に関しては「理工学部専任教員推薦内規」で明文化している。 教員任用に関しては公募募集しており、教員資格条件は研究業績や教育業績等の評価に加えて私立大学の現状や課題に理解があることが挙げられる。さらに、授業科目と教員の適合性を各学科で判断し、総務委員会・教授会の承認の下各学科の教員によって構成される専任教員選考委員会(人事選考委員会)で審議され、審査報告書を基に総務委員会・教授会で審議し教授会での投票により決定する。 教員昇格に関しては、各学科からの依頼を受けて総務委員会・教授会の承認の下各学科の教員によって構成される専任教員選考委員会(人事選考委員会)で審議され、審査報告書を基に総務委員会・教授会で審議し教授会での投票により決定する。 ②2016年度には専任教員10名(准教授4名, 専任講師4名, 助教2名)を任用し、11名(准教授から教授6名, 専任講師から准教授5名)の昇格を行った。					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか						
教員の教育研究活動等の評価の実施						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	① 教育活動の業績評価について、本学部では「教育貢献賞」を制定し(2006年7月)、「理工学部・理工研究科教育貢献賞に関する内規」に基づき、質の高い特色ある授業等を展開している教員に対して表彰を行っている。2016年度は、2名の教員が表彰を受けた。 ② 研究活動の業績評価について、「理工学部研究報告」を発行しており、査読を行っているため、質の高い論文の投稿がなされている。2016年度は第54号を発行した。さらに、研究委員会では所属する教員から研究スペース・大型機器予算の配分等の申請を受け付け、研究内容を評価し配分額等を決定している。このことにより研究活動の活性化に努めている。 ③総合的な業績評価として、専任教員データベースの公表を行っている。					
教員の資質向上のための研修・諸活動(FD)の実施状況とその有効性						
b ●教育研究、その他の諸活動(※)に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 ※ 社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動を指します。 ※ 『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」(3)教育方法で評価する。 【600～800字】	2016年度は、教員としての資質向上の機会として以下の講演会、研究交流会等を実施した。 ○ FD講演会 2016年度実績：3回 (4月22日,10月21日,11月25日) 1. 「大学における授業実施方法」教員44名 2. 「障害者差別解消法について学ぶ」教員51名 3. 「理工学部におけるアクティブ・ラーニングの実践例について」教員88名 ○ 研究交流会「生田サロン、学部内の研究交流、人的交流を通じて研究と教育の活性化」 [1回目:2016年7月8日] (機械工学科教員):「身近な難問,乱流」 (応用化学科教員):「分子が作る幾何学模様」25名 [2回目:2016年12月16日] (電気電子生命学科教員):「電気をキレイにするー電気にも品質がある?ー」 (機械工学科教員):「折り紙の工学応用ー折り紙は役に立つ?ー」25名 ○ 安全・教育講習会「薬品講習」(5名)「高圧ガス講習」(5名)「エックス線講習」(4名):安全教育(内は出席者数) ○ 夏休み科学教室「地元の子供たちに科学技術の楽しさを教える」 2016年8月4日,教員40名,学生アルバイト153名,参加者271名(保護者同伴者224名),地域貢献	FD講演会は複数回、かつ教授会の後など教員が出席しやすい時間帯に設定することで、より多くの教員にFDの機会を提供している。		次年度も引き続き「FD講演会」及び「生田サロン」を定期的開催することで、教員に資質向上の機会を提供する。		

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか					
a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	① 教育目標として学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。 ② 課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件を明確にした「学位授与方針」を、目指すべき人材像、具体的到達目標として教授会において定めている。				
(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか					
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示した修得すべき成果を達成するため、教育課程の編成理念、教育課程の編成方針を明らかにした「教育課程編成・実施方針」を教授会において定めている。				
(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか					
a ◎公的な刊行物, WEBサイト等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	① 教職員については, 学部便覧(6,7頁)で公開している。また, 各方針は年度計画書に記載されており, 教授会を通じて全教員に周知徹底されている。 ② 学生についても, 学部便覧(6,7頁)で公開している。便覧は新年度開始時に実施されるガイダンスの際に新生対象に配付され, 教職員より内容の説明を実施している。 ③ 社会一般への公表は, 学部ホームページにおいて教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を掲載している。				
b ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の認知状況を確認していること。 【約200字】	「明治大学における学びに関するアンケート」では, DPやCPの認知度は30.8%であり, 全学平均よりもやや高い比率となっているが, さらに認知度を高める必要がある。また, これらを知る機会としては, 本学ホームページ・シラバス・履修ガイダンスの順であった。		DPやCPの認知度は30.8%であり, さらに認知度を高める必要がある。		学部ホームページの構成や階層構造を改善し, CPやDPを閲覧しやすくするように改善する。

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。						
C列の点検・評価項目について、必ず記述してください						
効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述						
改善を要する点・理由 F列の現状から記述						
「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目						
「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述						
(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか						
a	<p>●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の検証は, まず「自己点検・評価委員会」にて実施される。その後, 検討の必要性がある場合は, 理工学部・理工学研究科執行部で執行部(案)を作成し, 「教学委員会」「総務委員会」「合同教授会」で審議され, 承認後に発令されることになる。 2016年度は, 2017年1月13日の教授会で変更しないことを確認した。</p>				

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか						
必要な授業科目の開設状況						
a ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【300字程度】	① 理工学部は、理学と工学の双方の資質を兼ね備え、幅広い教養を身に付け、専門的な知識を体系的に築くために8つの学科（電気電子生命学科、機械工学科、機械情報工学科、建築学科、応用化学科、情報科学科、数学科、物理学科）を設置している。 ② 機械工学科、機械情報工学科、建築学科のカリキュラムは、J A B E E (日本技術者認定機構)によってJ A B E Eプログラムの認定を受けている。そのため、J A B E E基準にあわせて、必修科目、選択必修科目を設置している。 ③ 本学部の2017年度における総開設授業科目は1,174科目であり、教養共通科目99科目(外国語科目含む)、専門教育科目1,075科目である。理系基礎科目は学科共通で設置されるが必修区分などが学科によって異なるため各学科の専門教育科目として計上している。専門教育科目は、さらに学科専門科目、複合領域専門科目、教職関係専門科目に分類される。					
b ● CPに基づき、必修科目を開設していること。 【200字～400字程度】	全ての学科で「卒業研究」「卒業研究・卒業設計」を4年次、必修科目にしている。「卒業研究」「卒業研究・卒業設計」の目的は、選定した研究テーマについて自主的に研究を進め、問題を解決していき、得られた成果を発表し論文や作品としてまとめることで、将来理工学を修得した社会人として自立するための素養を養うことである。					
c ◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること。 【200字～400字程度】	① 開設総授業科目数に占める教養科目の割合は、1,174科目中99科目で8.0%である。2015年度から136単位とした卒業要件単位数のうち、教養系科目の必要単位数は24単位以上としている。 ② 教養科目は、4年間を通じて豊かな人間性を養うとともに社会生活に必要な知識を得ることで多角的な視野を身につけられるよう、授業科目を配置している。1・2年生を対象とした少人数制の教養教育科目「総合文化ゼミナール」においては、全員でディスカッションしながら人間、文化、社会について理解を深めたり、学問の基礎や研究のあり方などについて学ぶ。3・4年生向けには人文・社会系を中心とした講義科目を設置し、進学や就職をひかえた学生に自らの専門と社会・文化とのかかわりを再考してもらう機会を設けている。また、複合領域専門科目では、学科を横断するような理系科目からジョブインターンシップなど実社会に触れる科目など多岐にわたる科目を設置することで、学生の好奇心を刺激している。					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）					
d ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	順次的・体系的な履修への配慮として、「科目の相関・体系図」を学科ごとに『学部便覧』に記載し、4月の各学年ガイダンス時に詳細を説明している。また、本学ホームページには科目の一覧を掲載し、学生に科目体系図を示している。				
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性					
e ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	① 教育課程の検証プロセスについて、カリキュラムの見直しは社会変化や学生のニーズに応じて5年ごとに検証されており、次の改正は2020年度の予定である。カリキュラム改正のプロセスは、「教学委員会」の下、各学科・総合文化教室の教員で構成されるワーキンググループを立ち上げて、改正の方針を協議し具体的な内容が作成され、その後「教学委員会」で審議を行い、最終的に「理工学部・理工学研究科合同教授会」で承認を得ている。なお、各学科・教室においてカリキュラム改正を実施した方が教育効果を高められると判断した場合は、5年の規定に捉われずに改正することもある。 ② 2016年度は、特にカリキュラム変更を行っていない。 ③ 「大学における学びに関するアンケート」における授業科目の体系について、67.8%が肯定的であるが学部別では最下位であるため、その原因について執行部で検討しているところである。		「大学における学びに関するアンケート」における授業科目の体系について、肯定的意見の割合が全学で最下位である。ガイダンス等において、学科の履修体系の説明が不足しているためと推測される。	特に低学年のガイダンスにおいて、学科のカリキュラム体系について、将来像を含めた説明ができるように改善していくことで、学生にカリキュラム体系について正しく認知させるようにする。	2015年度に実施したカリキュラム改正の有効性を検証するとともに、2020年度までに肯定的意見の学生を70%増やす。

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか						
特色ある教育プログラムの内容とその効果 (当該学部等固有のプログラムやGP探採事業など)						
a ●学部の特色、長所となるプログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】	○「卒業研究」「卒業研究・卒業設計」を必修科目としている。 ○外国語科目、総合文化科目や基礎化学実験、基礎物理学実験といった科目において、無学科混合クラス制を導入している。 ○「総合文化ゼミナール」(1・2年次学生向けの少人数の教養教育科目)では、人間・文化・社会についてディスカッションやプレゼンテーションを通じて学ぶことができる。 ○eラーニング自学自習ソフト「ALC Netacademy2」を利用する「英語コミュニケーション1・2(1年次必修)」を開設している。 2016年4月から2017年3月までのスタンダードコース利用者一人当たりの学習回数と時間の平均は以下のとおりであった。学習回数：72.0回、学習時間：7.19時間 ○本学大学院に進学予定の学部4年生を対象に、早期に大学院の授業科目を履修できる先取り履修制度を設けている。履修上限は学科により6又は10単位で、修得した単位は大学院に入学後、大学院修了に必要な単位として認定している。2016年度は187名が履修した。 ○実験・実習、ゼミナール、卒業研究・卒業設計などが学年進行に従って配置され、4年間の体系的アクティブ・ラーニングの枠組みができています。 ○2015年度カリキュラム改正によって、複合領域専門科目に実習付き短期集中科目として「プロジェクト実習」を新設した。2016年度は、2017年度開講のための準備を行った。	混合クラスの導入により、学科の枠を越えた学生交流が生まれ、広い視野をもった人材養成に役立っている。特に、理学系学科と工学系学科の学生が意見交換をしながら学ぶことにより、理工学部の理念である「理と工の融合」が推進されている。		教学委員会において作成する時間割作成方針にクラス編成を明示して、混合クラス制度を堅持する。		
学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果 (学部間協定、短期海外交流など)						
b ●学部の特色、長所となる国際化プログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】	海外の大学との交流について、2016年度末で12校との学部館協定を締結している。 学部間協定 ①上記協定校への送出し ・チュラロンコン大学建築学部 2016年度11名(学部生1ヵ月間) ②上記協定校からの交換留学生の受入れ(年度別内訳) ・チュラロンコン大学建築学部 2014年度4名、2015年度4名、2016年度4名 ・シンガポール国立大学設計・環境学部 2014年度2名、2015年度2名、2016年度2名 ③マレーシアとのツィニングプログラム「マレーシアJAD編入学試験」、学生はマレーシアで3年間の予備教育及び大学教育を受け、本学部の3年生に編入。 入学実績：2013年3名、2014年度1名、2015年度4名、2016年度5名 ○2015年度カリキュラム改正によって、複合領域専門科目に実習付き短期集中科目として「国際実習」を新設した。「国際実習」は、国際的に通用する職業人になるための訓練として、理工学を通じて異文化を理解すると同時に、実習実施国の語学の初歩をマスターすることを目的としている。2016年度は実習先をタイとして実施し、8名が参加した。					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育方法及び学習方法は適切か					
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性					
a ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。 【約200字】	①・② 学科専門科目において、数学科を除いて講義科目・演習系科目の他に実験あるいは設計科目を必修としており、各学科において特長のある内容となっている。 ③ 実習科目の一つとして2015年度カリキュラムから複合領域専門科目の中に「国際実習」「プロジェクト実習」を設置している。 ④ 実験科目のうち「基礎物理学実験1・2」「基礎化学実験1・2」は全学科とも1年次の必修科目にしている。 ⑤ eラーニング自学自習ソフト「ALC Netacademy2」を利用する「英語コミュニケーション1・2」を1年時必修科目として開設している。 ⑥ 学科専門のゼミナールに加え、1・2年生を対象とした少人数教養教育科目「総合文化ゼミナール」を開設し、ディスカッションやプレゼンテーションを主体とした、少人数ならではの密度の濃い授業を行っている。				
履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫					
b ◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。（学部） 【約200字】	① 履修登録科目の上限単位数は、2015年度入学者から全学年の履修制限単位数を49単位とした。 ② 各年次の平均履修単位数は、1年次47.6単位、2年次46.4単位、3年次42.0単位、4年次20.1単位である。1年次から3年次について、履修制限単位を超えて履修している学生の割合は9.4%である。これは、卒業要件外科目（資格課程科目や、基礎線形代数1実習、基礎微分積分1実習など）の履修を行っているためである。 ③ 進級制限を設けており、2015年度入学者からは1年次より2年次へは24単位以上、2年次より3年次へは66単位以上修得という条件を設定している。また、前年度修了までに106単位以上修得し、かつ各学科で指定した科目の単位を修得していなければ、4年次での卒業研究・卒業設計の履修ができない制度としている。				

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画	
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>c ●履修指導（ガイダンス等）や学習指導（オフィスアワーなど）の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字～400字】</p>	<p>① 履修指導について、4月の各学年ガイダンス時において、重要な科目や卒業に向けて必要な条件あるいは受講方法などについて、各学科で履修指導を行っている。JABEEを実施している機械工学科・機械情報工学科・建築学科では、2年次から4年次に対して年度初めの履修届提出と同時にチェックシートの提出が義務付けられている。このチェックシートには学生が前年度の単位取得状況と、今年度の履修申請状況の両方を入力させ、その結果を確認することにより、学生自身に達成度の自己点検を行わせる仕組みとなっている。</p> <p>② 学習指導としては、各学期の始めに単位過少者に対して面談を含む指導を行っている。 また、オフィスアワーの実施は教員にゆだねられているが、JABEEを実施している学科についてはほぼすべての教員が実施している。実施時間帯等について、学生に対する周知はシラバス等で行われている。</p> <p>③ 授業の出席等は個々の教員に委ねられており、学習ポートフォリオ等を活用した組織的な学習実態の把握は行っていない。</p> <p>④ 「明治大学における学びに関するアンケート」設問17では、ガイダンスや履修指導の満足度が70.3%であるが全学で最下位のため、今後その原因を検討する。</p>				
<p>学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）</p>					
<p>d ●各授業科目において、学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）方法を採用しているか。 【約400字】</p>	<p>○ 学習支援室の設置（運営責任者：教務主任） TA（理工学研究科に所属する大学院学生）が対応、開室：授業実施期間中の月曜日から金曜日の12時30分から17時30分まで、主に数学・物理・化学などの基礎科目を中心に指導を行っている。</p> <p>○ 実験などの実習科目では少人数（2～4名程度）のグループ内で、安全の確認、実験の目的、目標、内容の確認を教員の指導のもとで行い、学生が自分たちで計画を立てることでより深い理解が得られている。実験科目にTAを配置し学生の目線からアドバイスを行うことで、学生の自主的な実験が機能している。</p> <p>○ 理工学部では卒業研究・卒業設計が必修となっており、そこでは教員による指導だけでなく、学生同士が協力しながら研究を進めている。特に4年生にとっては、身近な大学院学生が研究や実験装置の使い方、作り方などのアドバイスを行うことで、自ら学ぶ授業方法となっている。</p>				

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか					
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】	① 全学部統一様式のシラバス作成を全教員に依頼し、半期14週の枠組みにおいて各回の講義内容を個別に記載し、Oh-o!Meijiシステム上でも閲覧可能となっている。 ② 学生には冊子の配布は行わない。ホームページ上でシラバスを公開しており、学生個人ポータルサイトであるOh-o!Meijiシステム上でも公開している。				
b ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】	シラバスの到達目標の達成度について、毎学期に実施している授業改善アンケートにおける設問「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」に対して、2016年度の調査では春学期96.9%、秋学期97.3%であり、それぞれ前年度実績(96.5%、96.8%)をやや上回った。また、「指定された教科書等は授業を理解するうえで適切でしたか」という設問について、同比率は春学期87.1%、秋学期88.4%で、前年の実績(85.4%、87.6%)をやや上回った。				
c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	① シラバス作成にあたっては、学部の教学に関することを審議する「教学委員会」が編集の責任主体となっており、各教員に全学科統一書式での執筆を依頼している。内容に関しての点検は教学委員会の委員が点検しており、必要があれば修正をかけている。記載項目の標準化を図り、毎年各教員が見直しを行っており、必要があれば修正をしている。シラバスに基づいた授業を展開するため、学期途中でシラバス記載内容を変更する場合は履修学生に十分な周知するよう教学委員会において注意喚起している。 ③ 「大学における学びに関するアンケート」では、「1週間の授業外学習時間」は、13.2%が1時間未満であり、単位制度の想定する時間数を下回っている学生層が一定数存在する。また、「科目の予習・復習を行う時」にシラバスを参照する学生は、42.9%であることを考え合わせると、事前・事後学習に関する指示が不明瞭であることが窺われる。		事前・事後学習を単位制の規定どおりに行っていない学生が、少なくとも13.2%いる。		ガイダンスの際に、単位制では自宅学習が義務付けられていることを説明し、2020年度までに1週間の授業時間外学習が1時間未満であるものの割合を10%以下にする。

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか					
a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約200字】	① 成績評価についてはGPA制度を導入しており、基準については便覧に明記している。 ② 成績分布に関して、学科別の平均GPAは、2016年度秋学期時点で電気電子生命学科2.30、機械工学科2.50、機械情報工学科2.22、建築学科2.62、応用化学科2.67、情報科学科2.65、数学科2.59、物理学科2.44となっている。 JABEE認定の機械工学科、機械情報工学科及び建築学科については、授業実施報告書の提出を義務付けており、これを精査するなど厳格な成績評価の確保が行われている。さらに、複数教員が担当する科目については、担当者間の会議を実施し、成績評価の標準化を図っている。機械系2学科及び建築学科以外においても評価基準に基づき厳格な評価を行っている。				
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか					
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約400字】	○ FD委員会 FD講演会の企画及び実施、学生による授業改善アンケート内容の検討、各学科におけるFD活動の情報共有とその結果の取りまとめ。 ○ 授業実施報告書(機械工学科、機械情報工学科及び建築学科) 授業改善アンケートの結果に基づき、改善プランを授業実施報告書に記載し、次年度以降の授業実施に反映させている。 ○ 兼任講師を招いた「授業計画と反省の話し合い」を各学科ごとに実施している。2016年度の実績は以下の通り。なお、出席者数は延べ数である。電気電子生命学科：8回(専任23名、兼任12名、TA・助手10名)、機械工学科：7回(専任50名、兼任9名)、建築学科(専任22名(うち特任1名)、兼任18名、助手4名)、数学科1回(専任16名、兼任9名)、総合文化教室1回(専任10名、兼任33名) ○ FD講演会 2016年度実績 1. 「大学における授業実施方法」教員44名 2. 「障害者差別解消法について学ぶ」教員51名 3. 「理工学部におけるアクティブ・ラーニングの実践例について」教員88名	FD講演会の出席者は延べ数で183名となった。また、全教員の3/4以上が1回以上出席し、目標を達成できた。		次年度も引き続き「FD講演会(勉強会)」を定期的で開催することで、教員に授業改善について検討する機会を提供する。	
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	○ 授業改善アンケート アンケート結果は、科目毎に回答項目が棒グラフで表された一覧表が作成され、教員に送付される。さらに、自由記入欄についても各教員が確認できるようになっており、教員個人が、その結果を反省材料として受け止めているアンケート結果については学生が理工学部窓口で自由に閲覧できるようになっている。 2016年度の実施率については、春は専任教授が70.6%、専任准教授が76.7%、専任講師が80.8%、秋学期は専任教授が67.4%、専任准教授が71.1%、専任講師が82.6%と、総じて高い実施率を示している。実施率についてはFD委員会において報告されているが、アンケート結果については検証していない。				

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	① 教育内容・方法の検証・検討については、各学科・教室の会議にて検討され、カリキュラム等に変更がある場合は「教学委員会」に提案され、承認される手続きとなっている。 ② 2016年度の実績として、2015年度カリキュラム改訂時に設置された「プロジェクト実習」科目について、教学委員会で開講準備を行った。 ③ 「学びに関するアンケート」では、授業形態・方法の満足度を調査している。本学部における満足度の上位3項目は「TA等の教育補助者の支援のある授業」(80.6%)、「教室での講義」(77.3%)、「実習・実験を行う授業」(75.1%)である。 本学部の実習・実験にはTA・RAなどの教育補助従事者が配置されている授業が多く、このことが学生の学びに好影響を及ぼしていることが読み取れたため、次年度以降も継続して教育補助従事者を確保していく。					
	本学部の定めるDPは、「教養としての知識」「専攻分野の専門知識」「論理的な思考方法・能力」「プレゼンテーションの方法・能力」である。 「大学における学びに関するアンケート」において、身につけた学習成果・能力と授業形態・方法の関係性を分析した結果、DPに定める獲得能力に対する教育の有効性・満足度に関して、「ゼミや演習」の授業形態・方法の貢献度が高いことがわかった。特に、「論理的な思考方法・能力」の獲得には大きく貢献している。本学部のCPにおいて「卒業研究・卒業設計を通じて技術者・研究者としての実践力の向上、専門分野における最新理論の理解」を掲げており、授業方法が適切であることがうかがえる。 一方、「専攻分野の専門知識」に対する教育の有効性・満足度が低かった項目は「定期的な課題」であるため、その原因の調査が必要である。		授業形態・方法のうち、「定期的な課題」の有効性・満足度が低い。		アンケートなどを行い、「定期的な課題」の有効性・満足度が低い原因を調査し、自己点検・評価委員会において改善策を検討する。	

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか						
b ●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。 ●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。 【約400字】	学習の成果として学位授与にあたり重視する科目として、学生が専任教員の研究室に所属して指導を受ける「卒業研究・卒業設計」を必修科目としている。さらに卒業研究を履修するための条件を学科ごとに定めている。多くの学科では「卒業研究2」の履修者には4年間の勉学の集大成として「卒業研究審査会」を実施している。これは研究内容をプレゼンテーションし、指導教員以外の教員も参加し審査するので、学力の客観性を担保している。	1・2年次に配置されている実験、実習科目は与えられた課題をこなすことに重点が置かれているのに対し、「卒業研究・卒業設計」は学生が自ら課題に取り組むためアクティブラーニングの要素が非常に大きい。そのため、自ら問題を発見し、それを解決する能力の向上に役立っている。		1・2年次の課題をこなすタイプの実験・実習と学生の主体的な実験・実習である「卒業研究・卒業設計」を補完する新たな科目「プロジェクト実習」を開設する。		
●学位授与率、修業年限内卒業率の状況	2016年度の学位授与率は84.6%、電気電子生命学科は82.0%、機械工学科は88.3%、機械情報工学科は78.6%、建築学科は91.3%、応用化学科は90.9%、情報科学科は85.1%、数学科は81.6%、物理学科は77.1%であった。また、標準修業年限内卒業率は学部全体で81.5%であり、大学平均(82.9%)よりもやや低い値である。					
●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。	卒業生の進路実績は、学部卒業生926名のうち就職者520名(56.2%、前年度比1%減)、進学者361名(39%、前年度比1.3%増)であり、文系の学部と比べると進学者が多い。業種別では多い順に製造業(30.8%)、情報通信業(22.5%)、建設業(11.5%)であるが、就職先は各学科に関連した電気、機械、建築、化学、IT、教員、公務員と多岐にわたり、幅広い分野において活躍できるデザイン能力あふれる技術者や研究者を育成するという本学部の目的と合致している。					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください					
●学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を実施しているか。 【約400字～600字】	学生の自己評価について、JABEEの認定を受けた機械工学科、機械情報工学科及び建築学科では、学生に達成度を自己評価させるためのチェックシートを配付し、実施している。さらに、審査会に卒業生を招待して、在学時の教育内容・方法に対するアンケートを実施している。そして、審査会終了後に全ての学生が最終的な達成度をチェックシートで確認している。 一部の学科において、就職委員を通じて就職先の企業から卒業生の評価をヒアリングしている。					
●学生の自己評価を実施しているか。 【各約300字】	毎学期に実施している授業改善アンケートにおいて、学生の授業に対する達成度を2つの調査項目から学生（全学）の満足度を図っている。「この授業で新しい知識や考え方を得ることができましたか」について、2016年度春学期及び秋学期の調査ではそれぞれ96.7%、97.2%であった。また、「あなたのこの授業に対する自己採点は何点ですか」について、同比率はそれぞれ95.5%、95.9%であり、これらのことから主体的に授業に臨め、シラバスに定める到達目標を達成していることが見て取れる。					
	「明治大学における学びに関するアンケート」では、学習成果の自己評価を調査しており、「入学して、自分自身が成長したか」の項目について、成長または少し成長した、の割合が約76.2%である。この数字は全学平均（79%）を下回っているものの多くの学生は成長を自覚していることが読み取れる。なお、問21に関連し、「専攻分野の専門知識」は「身についた」の割合が92.3%（全学平均85.1%）と高い一方、「国際的課題に関する知識」が44%（全学平均66.1%）と思わしくない結果であり、改善を要する。		「国際的課題に関する知識」が身に付いたかという問いに対する肯定回答率が全学を下回っている。		2016年より新たに開設した国際実習の講座数を増やすなどして参加者を増やし、2020年度までに肯定回答率を50%にする。	
	本学部の定めるDPは、「教養としての知識」「専攻分野の専門知識」「論理的な思考方法・能力」「プレゼンテーションの方法・能力」である。 「大学における学びに関するアンケート」において、身につけた学習成果・能力と授業形態・方法の関係性を分析した結果、DPに定める能力の有効性・満足度に関して、学生の成長感と学習成果（DP）の関係性を分析した結果、学生が成長したと感じた能力として「教養としての知識」「専攻分野の専門知識」「論理的な思考方法・能力」「問題点を発見し、分析する力」に相関がみられた。「プレゼンテーションの方法・能力」においては弱い相関がみられた。このことから、本学部の教育においてDPに定めた能力を学生が修得していることが読み取れる。					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか						
<p>a</p> <p>◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎（研究科）学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】</p>	<p>卒業要件単位数は132単位（2015年度入学者からは136単位）であり、便覧(10頁)を通じて学生に周知している。学位授与方針に記載してある修得単位数や具体的到達目標と照合しつつ判定し、教授会の議を経て学位の授与が決定される。卒業にあたって4年次には卒業研究・卒業設計は必修科目としている。</p>					
<p>b</p> <p>●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】</p>	<p>明治大学学則及び明治大学学位規程に基づき、学位授与方針に記載してある修得単位数や具体的到達目標と照合しつつ判定し、教授会規程第7条に定められた教授会の議を経て学位の授与が決定される。2016年度も合同教授会の議を経て(2017年2月27日開催)、学位の授与が決定された。</p> <p>卒業研究・卒業設計の単位認定は、「タイトル提出」「中間審査」等の段階を経て、指導教員及びその他の教員も含めた「卒業研究・卒業設計発表会(名称は学科によって異なる)」において、発表・質疑によって審査される。年間を通じて厳格に指導しており学位授与は適切である。</p> <p>なお、応用化学科では、成績優秀者のうち、本学大学院への進学希望者を対象とした早期卒業制度を導入している。2016年度については2名がこの制度を利用して大学院に進学した。</p>					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか（「AP」の全文記述は不要です）						
「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示						
a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】	① 理工学部の入学者の受入方針において、「求める学生像」として3点を定め、「入学志願者に定める高校等での学習への取り組み」を明示した入学者受け入れ方針「理工学部アドミッションポリシー」を定めている。 ② 「入学者の受入方針」は「入学試験要項」及び明治大学ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している。					
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか						
a ●学生の受け入れ方針と入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。（公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。 【約800字】	大学の授業を理解できる十分な基礎学力を持ち、問題解決に役立つ応用力を身に着ける意欲のある学生を獲得するため、下記の方法で入学者選抜を実施し、受験生の能力を適切に判定している。 一般入試は、「一般選抜入試」が3教科4科目（数学、英語、理科。理科は物理3題、化学3題から任意の3題を選択）で、「センター試験利用入試」が3教科4科目方式及び4教科5科目方式で、「全学部統一入試」は3教科4科目で実施している。 特別入試は、「AO入試」「スポーツ特別入試」「外国人留学生入試」に加えて、推薦入試として「指定校推薦入試」「付属高等学校からの推薦入試」を実施している。					
(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか						
収容定員に対する在籍学生数比率の適切性						
a ◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。 ◎学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。 ◎学部・学科における編入学定員に対する編入学生数比率が1.00である（学士課程）。 【約200字】	① 過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の学部平均は1.12で、学科ごとの比率は、電気電子生命学科では1.07、機械工学科では1.10、機械情報工学科では1.09、建築学科では1.11、応用化学科では1.14、情報科学科では1.20、数学科では1.16、物理学科では1.08である。情報科学科については1.2を超過しているため、改善を要する。 ② 2016年度の収容定員は4学年で3,700名、在籍学生数は2017年5月1日現在4,317名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は1.17である。学科ごとの比率は、電気電子生命学科では1.12、機械工学科では1.16、機械情報工学科では1.18、建築学科では1.16、応用化学科では1.18、情報科学科では1.27、数学科では1.18、物理学科では1.10である。情報科学科については1.2を超過しているため、改善を要する。 ③ 2017年度の外国人留学生の入学状況は、1年次入学者1,137名のうち31名が留学生（3.0%）である。2017年5月1日付け学生数4,317名のうち留学生（交換留学生及び編入生含む）は132名（3.0%）である。		学部・各学科において厳格な定員管理に留意しているが、入学定員に対する入学者数比率は1.00をやや超過している。特に情報科学科については在籍学生数比率を大きく超過してしまっている。その一方で、一般選抜入試の志願者数が10,000人を超えるようになり、就職に関しては、毎年5,000件を超える求人を受けていることから、社会からの要請に対応することが迫られている。		基礎学力を兼ね備えた多様な学生を確保すること、及び地方在住の優秀な学生の受験機会を増やことを目的に、一般選抜入試に加え、全学部統一入試、及びセンター利用入試の定員を平成30（2018）年度より増やす認可申請を行う。	

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応						
b ◎現状と対応状況 【約200字】	<p>入学者予測には細心の注意を払っているが、2017年度については電気電子生命学科・機械工学科・情報科学科・数学科で入学定員の超過があった。必修科目・実験等については必要に応じてクラスを分割して対応している。</p> <p>基本的に入学定員を過不足なく満たす方針であり、入学定員と入学者数に著しい誤差が生じないようにしている。</p>					
(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか						
a ●学生の受け入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	<p>①APについては毎年自己点検・評価委員会で検討し、加筆・修正が必要な場合は学部執行部会で議論し、さらに「入試委員会」「総務委員会」で審議し、例年は1月の「理工学部・理工学研究科合同教授会」において承認している。</p> <p>②入学試験制度の検証については、学部の「入試委員会」において、一般入試、指定校等の推薦入試、特別入試のあり方について検討している。入学試験終了後には、執行部で入学者選抜に関する総合的な入試検討会を開催している。</p> <p>③入学試験実施要領については、特別入試・一般入試ともに通年で行っている。改革を行う場合は告知時期から逆算したスケジュールリングを行い、検討するようにしている。</p> <p>④2016年度は全学で実施される入学定員の増加への対応として、入試形態別志願者数の見直しを「入試委員会」及び「総務委員会」において行った。</p> <p>⑤各入学形態別のGPA及び卒業に要した年数、退学・除籍・休学者などについて追跡調査を行い、入試制度の適切性を検証できるようにしている。なお、追跡調査結果の抜粋を各付属校にも渡し、同校の指導に役立ててもらっている。</p> <p>また、「大学における学びに関するアンケート」では入学者の志望度を調査している。本学部においては志望学部・学科への入学率は92.3%と全学平均の89.4%を上回っているものの、本学の志望順位は第1希望38.1%、第2希望23.4%、第3希望以下38.5%となっている。第1希望者と第3以下希望者がそれぞれ約4割を占めることから、本学部が上位校志望者の目標となっている現状がうかがえる。</p>					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか					
a ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	①修学支援に関する方針として年度計画書には以下の項目を挙げ、教授会で承認している。 ・理工学部では、障がいのある学生対応として、入学以前にヒアリングを行い、当該学生に対する支援の確認を行い、入学後は学生にボランティアを呼びかけ学修のサポートをしている。 ・留学生に関しては、年度始めに留学生対象にガイダンスを実施し、また、国際交流ラウンジにTAを配置し学習のサポートをしている。 ・原級者については、指導教員(担任教員)の指導のもと、卒業に向けた準備を行っている他、適宜職員による相談を行っている。また、学期はじめに単位過少者ガイダンスも実施している。 ・休学・退学者に関しては、指導教員(担任教員)の承認を必要とすることで休学・退学理由だけでなく面談等を行いながら学生の現状把握を行っている。また、原級者や休学者及び退学者に関して教学委員会及び教授会においても確認・検証している。 ・学習支援室を開設しており、数学・物理・化学・情報などのつまずきやすい専門科目・基礎教育科目の支援を行っている。 ②修学支援については主として「教学委員会」がその役割を担っている。教学委員会は月に1度以上開催され、必要な場合は随時対応が可能な体制を整えている。				
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	①標準就業年限を通じたの退学率は5.0% (全学平均3.0%, 前年値6.9%), 入学後1年以内の退学率2.0% (全学平均1.3%, 前年値2.5%) であり、全学平均より高い値となっているものの、前年比では改善がみられる。 休学・退学者に関しては、指導教員(担任教員)の承認を必要とすることで休学・退学理由だけでなく面談等を行いながら学生の現状把握を行っている。これらの学籍移動状況は毎月開催される教学委員会・教授会において報告され、状況を確認・検証している。 原級者については、指導教員(担任教員)の指導のもと、卒業に向けた準備を行っている他、適宜職員による相談を行っている。また、学期はじめに単位過少者ガイダンスも実施しており、担当教員から個別指導を受ける機会を設けている。 本学部は独自の学習支援室を開設しており、TAを配置し数学・物理・化学・情報などのつまずきやすい専門科目・基礎教育科目の支援を行っている。		標準就業年限を通じたの退学率は5.0% (全学平均3.0%), 入学後1年以内の退学率2.0% (全学平均1.3%) であり、全学平均を上回っている。		本学部においては退学を希望する場合、クラス担任との面談を義務づけている。まず、面談時に退学理由を把握し、情報を蓄積し、その原因を分析する。

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	②障がいのある学生対応として、要望があった場合は入学以前にヒアリングを行い、当該学生に対する支援の確認を行い、入学後は必要があれば駿河台障害学生支援チームや学生相談室など関連部署との連携をとり、適切なサポートをしている。					
	③外国人留学生に対し、年度始めには留学生対象ガイダンスを実施し、学業に関する説明のみならず先輩留学生と接する時間を設定することで、相互支援が行える機会を提供している。また、JAD入試の編入学者には在学生チューターを配置するなどのサポート体制を設けている。					
	④学習支援室の質問事項、利用状況等は専従の嘱託職員がとりまとめ、これをデータ化している。このデータは定期的に各学科の教学委員に送付され、内容を確認し、必要があれば学科内での教育改善に役立てられる仕組みが整えられている。					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。						
a ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	①進路支援の方針は年度計画書には以下の項目を挙げ、教授会で承認している。 ・進路支援については「就職指導委員会」を設置しているほか、各指導教員が適宜学生の進路に対しての相談や支援を行っている。 ・「就職指導委員会」を設置し、就職キャリア支援事務室に加え、各学科の就職指導委員が窓口になって就職活動にかかる学生からの相談、質問に対応する体制ができている。なお、委員長は学部長推薦により選出され、合同教授会で承認を得る。 ・大学院進学に対する意義などを「講演会：キャリアとしての大学院進学」として社会人の実体験に基づいた講演を実施している。学部生に大学で学ぶ意義を考えてもらい、さらに、進路のひとつの選択肢として大学院の存在を教えている。なお、大学院への進学者が卒業生の4割程度となっている。 ②進路支援については「理工学部就職指導委員会」が役割を担っている。2016年度は4回開催され、生田キャンパスにおける就職キャリア支援基本方針等を検討した。					
b ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	「就職指導委員会」を設置し、就職キャリア支援事務室に加え、各学科の就職指導委員が窓口になって就職活動にかかる学生からの相談、質問に対応する体制ができている。 就職支援行事については2016年度中に3・4年生を対象に「学校推薦希望者対象説明会」や「就職・進路ガイダンス」を生田キャンパス全体で実施した。同年度中の就職支援行事における総参加者数は延べ数で37,044名となり、前年の32,689名に比べて増加した。					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>キャリア支援活動については、学部間共通総合講座（キャリア形成支援講座）を開講している。昨年度の生田キャンパスにおける春学期（農学部開講）・秋学期（理工学部開講）の受講者数はそれぞれ45名、50名だった。</p> <p>インターンシップについては全学版インターンシップに参加した学生数は2016年度65名であり、前年度の70名より減少した。</p> <p>大学院進学に対する意義などを「講演会：キャリアとしての大学院進学」として社会人の実体験に基づいた講演を実施している。学部生に大学で学ぶ意義を考えてもらい、さらに、進路のひとつの選択肢として大学院の存在を教えている。</p>					
	<p>「明治大学における学びに関するアンケート」問28及び29において、進みたい方向を決めている割合、さらには行動している割合は、それぞれ54.9%、38.5%であり、行動している割合が最下位で全体平均（57%）を大きく下回っているが、これは大学院進学者が多いためと考える。</p> <p>卒業生のおよそ5割が就職、4割弱が進学しており、それ以外の者は1割を切る。この数値は進路状況は比較的良好であると考えられる。</p>					

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準10 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか					
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること。 【約400字】	①本学部における自己点検・評価は、「自己点検・評価委員会」で行っている。合同教授会で選出された委員長と担当教務主任、各学科及び各専攻(系)から推薦された委員(重複を含む)、さらに総合文化教室から推薦された委員14名で構成している。 ②自己点検・評価委員会とFD委員会のメンバーは同一であり、副委員長はFD委員会の委員長である。このことにより、評価結果を学部教育の改善に活かしやすい体制を構築している。 ③2015年度理工学部自己点検・評価報告書は2016年度中に2回の委員会を開催し、作成された。同報告書は明治大学ホームページで公開している。				
(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか					
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること	① 本学部の内部質保証の方針は、2016年度長中期計画書110～111頁に掲載している。 実績の評価については「自己点検・評価委員会」に、教育活動への反映は各運営に関する委員会が担うこととしている。自己点検・評価委員会は、点検・評価結果から改善方策を策定し学部長に報告するものであり、各運営に関する委員会は学部長・学部執行部の決定した方針に基づき審議を行い、各種改善方策の実施にあたる。この内部質保証の方針は、2004年2月17日の教授会において学部専門委員会に関する内規の改正が合意されて以降、実施されている。 ② 日常的な課題に対する改善策は、学部長・教務主任・大学院委員で構成する執行部において立案し、各種専門委員会、総務委員会、合同教授会の審議を経て実行に移している。年間の点検・評価は「運営に関する委員会」、「その他委員会」とは独立した合同教授会の専門委員会である自己点検・評価委員会が行うシステムとなっている。 なお、各委員会は内規の定めにより活動内容を合同教授会において報告している。				
●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること	特になし				

2016年度 理工学部自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
●学外者の意見を取り入れていること	<p>③ 2015年度自己点検報告書の評価については、「教員・教員組織の改善（SRの改善）」、「教育内容の拡充」、「外部評価（JABEE審査）の継続」の必要性等が挙げられた。これらに対する具体的な施策を2017年度の年度計画書に盛り込み、女性助教の新規採用（1名、2017～2019年度）、理工学部独自の国際実習プログラムの開始（2016年度から）、JABEE継続審査受審（2016年度、機械工学科・機械情報工学科）等の成果を上げつつある。</p> <p>④2014年度認証評価時の指摘事項「収容定員に対する在籍学生数比率の改善」は、第3期「改善アクションプラン」で遂行しており、2016年度においてこの問題は解消している。</p>				
	<p>⑤学外者の意見を取り入れる方法として、機械工学科、機械情報工学科・建築学科は、JABEE受審による外部評価を受審している。第三者機関による認定を積極的に受け入れていくことで、教育の質を保証する方針としている。</p> <p>その他として「父母懇談会」が挙げられる。父母懇談会における父母からの意見は、各地区に出向いた教職員によって作成される父母会報告書にまとめられる。この報告書は、事務的には父母会事務室に提出されるが、学部執行部に対しては執行部会を通じて共有され、課題として認識された点については共有を図っている。</p> <p>また、高大連携の一環事業として、生田地区との高大連携講座を開講しているが、教務主任は生田高校の評議会に評議員として参加している。ここでの意見は執行部会を通じて適宜共有されている。</p>				